

プロプラノロール塩酸塩錠 10mg 「ツルハラ」

【この薬は？】

販売名	プロプラノロール塩酸塩錠 10mg 「ツルハラ」 Propranolol Hydrochloride Tablets 10mg 「TSURUHARA」
一般名	プロプラノロール塩酸塩 Propranolol Hydrochloride
含有量	1 錠中 10mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」

<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、高血圧・狭心症・不整脈の治療・片頭痛 の予防に使われる薬です。
- ・この薬は、 β 受容体遮断作用と呼ばれる作用により血圧を低下させ、心拍数を下げて狭心症の発作を予防し、頻脈性の不整脈を抑制します。
- ・次の病気の人に処方されます。

本態性高血圧症（軽症～中等症）、狭心症、褐色細胞腫手術時、期外収縮（上室性、心室性）、発作性頻拍の予防、頻拍性心房細動（徐脈効果）、洞性頻脈、新鮮心房細動、発作性心房細動の予防、片頭痛発作の発症抑制、右心室流出路狭窄による低酸素発作の発症抑制

〔片頭痛発作の発症抑制の場合〕

片頭痛発作時の治療においては、日常生活に支障をきたしている人に使用されます。

〔右心室流出路狭窄による低酸素発作の発症抑制の場合〕

ファロー四徴症等により、右心室流出路狭窄による低酸素発作を起こす人に使用されます。

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに使用することが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にプロプラノロール塩酸塩錠 10mg「ツルハラ」に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人
- ・気管支喘息、気管支痙攣のおそれのある人
- ・糖尿病性ケトアシドーシス、代謝性アシドーシスのある人
- ・高度又は症状を呈する徐脈、房室ブロック（Ⅱ、Ⅲ度）、洞房ブロック、洞不全症候群のある人
- ・心原性ショックの
- ・肺高血圧による右心不全のある人
- ・うっ血性心不全のある人
- ・低血圧症の人
- ・長期間絶食状態の人
- ・重い末梢循環障害のある人（壊疽等）
- ・未治療の褐色細胞腫の人
- ・異型狭心症の人
- ・リザトリプタン安息香酸塩を使っている人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- ・うっ血性心不全のおそれのある人
- ・甲状腺中毒症の人
- ・特発性低血糖症、コントロール不十分な糖尿病、絶食状態（手術前後等）の人
- ・重篤な肝、腎機能障害のある人
- ・重度でない末梢循環障害のある人（レイノー症候群、間欠性跛行症等）
- ・徐脈のある人
- ・房室ブロック（Ⅰ度）のある人
- ・高齢の人
- ・小児等

○この薬には併用してはいけない薬リザトリプタン安息香酸塩(マクサルト)や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○〔片頭痛発作の発症抑制の場合〕

この薬は、毎日規則正しく使用する薬です。片頭痛の発作を速やかに鎮める薬ではありません。正しい使用方法について十分に理解できるまで説明を受けてください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、飲む量および回数は次のとおりです。

〔本態性高血圧症（軽症～中等症）に使用する場合〕

1 日量	30～60mgから開始され、効果が不十分な場合は、120mgまで徐々に増やされます。
飲む回数	1 日 3 回に分けて飲む

〔狭心症、褐色細胞腫手術時に使用する場合〕

1 日量	30mgから開始され、効果が不十分な場合は、60mg、90mgと、徐々に増やされます。
飲む回数	1 日 3 回に分けて飲む

褐色細胞腫の人は、必ず α 遮断剤と一緒に飲んでください。

〔期外収縮（上室性、心室性）、発作性頻拍の予防、頻拍性心房細動（徐脈効果）、洞性頻脈、新鮮心房細動、発作性心房細動の予防に使用する場合〕

成人

1 日量	30mgから開始され、効果が不十分な場合は、60mg、90mgと、徐々に増やされます。
飲む回数	1 日 3 回に分けて飲む

小児

1 日量	0.5～2mg/kgを少量から開始され、効果が不十分な場合は、4mg/kgまで増やされます。
飲む回数	1 日 3～4 回に分けて飲む

- ・ 1 日の最高使用量は 90mg です。

〔片頭痛発作の発症抑制に使用する場合〕

1 日量	20～30mgから開始され、効果が不十分な場合は、60mgまで徐々に増やされます。
飲む回数	1 日 2～3 回に分けて飲む

〔右心室流出路狭窄による低酸素発作の発症抑制に使用する場合〕

乳幼児

1 日量	0.5～2mg/kgを少量から開始され、効果が不十分な場合は、4mg/kgまで増やされます。
飲む回数	1 日 3～4 回に分けて飲む

●どのように飲むか？

- ・ コップ 1 杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●効果が不十分な場合の対応

- ・この薬を毎日規則的に使用しても効果が不十分な場合には、できるだけ早く受診してください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を1度に飲まないでください。飲み忘れに気付いた時に1回分をすぐに飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・過度の徐脈（めまい、意識の低下、考えがまとまらない、息切れ、脈がとぶ、脈が遅くなる、判断力の低下）があらわれることがあります。
 - ・気管支痙攣（息がぜいぜいする、息をするときヒューヒューと音がする、突然の息切れ）があらわれることがあります。
- 異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬を長期間使用する場合は、定期的に心機能検査（脈拍・血圧・心電図・X線等）が行われます。
- ・医師に相談しないでこの薬を減量したり、やめたりしないでください。病気が悪化することがあります。狭心症の人で急に使用を中止したとき、症状が悪化したり、心筋梗塞を起こしたとの報告があります。
- ・褐色細胞腫の人は、この薬を単独では飲まないでください。この薬のみを使用すると急激に血圧が上昇することがあります。
- ・褐色細胞腫の手術の時以外には、手術前24時間は使用しないでください。
- ・めまい、ふらつきがあらわれることがあります。特に飲み始めは、高いところでの作業や自動車の運転等危険を伴う機械の作業に注意してください。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
- ・授乳を中止してください。
- ・小児が使用する場合は、家族の方も正しい使用方法を理解して監督してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

〔片頭痛発作の発症抑制の場合〕

- ・この薬は頭痛発作の予防のために、規則正しく飲む薬で、頭痛発作を改善する薬ではありません。患者さんは、正しい使用方法について十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・頭痛発作時の痛みの強さがやわらいだり、頭痛発作の回数が減り、日常生活への支障が少なくなった場合でも、自己判断で使用を中止せずに医師に相談して下さい。症状が改善しない場合にも、医師に相談してください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

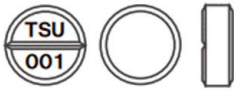
重大な副作用	主な自覚症状
うっ血性心不全（又はその悪化） うっけつせいしんふぜん（またはそのあつか）	からだがだるい、全身のむくみ、吐き気、息苦しい、動く時の息切れ
徐脈 じよみやく	めまい、意識の低下、考えがまとまらない、息切れ、脈がとぶ、脈が遅くなる、判断力の低下
末梢性虚血（レイノー様症状等） まっしょうせいきょけつ（レイノーようしょうじょうとう）	からだがだるい、顔が青白くなる、息苦しい、手足が冷たい、手・足の指先が白～紫色になりやがて赤くなる、手・足の指先の痛み、手足のかゆみ
房室ブロック ぼうしつブロック	めまい、気を失う
失神を伴う起立性低血圧 しっしんをともなうきりつせいていけつあつ	気を失う、立ちくらみ、めまい
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	発熱、のどの痛み
血小板減少症 けっしょうばんげんしょうしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい
紫斑病 しはんびょう	あおあざができる、皮下出血によるあざ
気管支痙攣 きかんしけいれん	息がぜいぜいする、息をするときヒューヒューと音がする、突然の息切れ
呼吸困難 こきゅうこんなん	息苦しい、息切れ
喘鳴 ぜいめい	息をするときヒューヒューと音がする、息苦しい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	からだがだるい、全身のむくみ、動く時の息切れ、脈がとぶ、脈が遅くなる、気を失う、立ちくらみ、発熱
頭部	めまい、意識の低下、考えがまとまらない、判断力の低下、気を失う
顔面	顔が青白くなる、鼻血
口や喉	吐き気、のどの痛み、歯ぐきの出血
胸部	吐き気、息苦しい、息切れ、突然の息切れ、動く時の息切れ、息がぜいぜいする、息をするときヒューヒューと音がする
腹部	吐き気

部位	自覚症状
手・足	手足が冷たい、手・足の指先が白～紫色になりやがて赤くなる、手・足の指先の痛み、手足のかゆみ
皮膚	あおあざができる、皮下出血、皮下出血によるあざ
その他	出血が止まりにくい

【この薬の形は？】

PTP	
形状	割線を有する素錠 
直径	約 6.0mm
厚さ	約 2.5mm
重さ	約 90mg
色	白色
識別コード	TSU001

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	プロプラノロール塩酸塩
添加物	乳糖水和物、バレイショデンプン、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：鶴原製薬株式会社 医薬情報部

電 話：072-761-1456（代表）

受付時間：9:00～17:30（土、日、祝日を除く）

ホームページ：(<http://www.tsuruhara-seiyaku.co.jp>)